

<STEP2 事例 優先度の高い環境行動の実施>

ダンボールの新たな可能性と環境経営が生み出す共感（洛西紙工株式会社）

取材日：2025.6.27

Q 取り組みの背景・きっかけ

A

- ・近年、通信販売市場が拡大し、ダンボール箱の需要も増えてはいるが、基本的に薄利多売のビジネスモデルで競合も多い。一方で、ダンボールはリサイクル率が高く環境負荷の少ない素材として注目されており、教育教材や展示会什器などさまざまな用途に活用することにより、自社の独自性を出すと共に、サステナブルな社会づくりに貢献できると考えた。

Q 取り組みを進める上で工夫したこと・苦労したこと

A

- ・従来のダンボール箱製造とは異なるダンボールの付加価値向上に挑戦する中で、社会的意義を最大化させながら利益を両立させる商品やサービスの開発には苦労した。
- ・社員にとってサステナブルな取り組みは最初は身近に感じにくいものだったが、メディアに取り上げられるなど成果が目に見えるようになるにつれ、共感や関心が徐々に広がり、ポジティブな変化が生まれてきたと感じる。



Q 取り組みの内容・成果とメリット

A

- ・ほぼ 100%リサイクルが可能な強化ダンボールを用いて、展示会やイベント会場向けの什器、ディスプレイ、オブジェや掲示 POP ボードに加え、子ども用遊具や教育教材、大型重量梱包箱等を開発し、環境意識を重視する企業に対して、運用改善による資源循環の推進を提案している。
- ・自社工場で発生するダンボール端材を活用した知育キットや他社端材とコラボしたお絵描きキットを制作し、自社のみならず社外の廃棄物量の削減にも貢献している。
- ・エンカルな価値観やサステナビリティに共感する企業からの受注が増え、新たな取り組みが結果的に新たな販路開拓のきっかけや利益向上につながっている。
- ・専門家による「省エネ・節電・EMS 診断」を受診し、工場の水銀灯や事務所照明を LED に入れ替えることで、CO2 排出量は約 35%削減、電気使用量も約 30%の省エネを達成。引き続き、設備の稼働管理や運用改善により省エネに取り組んでいる（稼働時間の集約、コンプレッサーのエア漏れ対策等）。



洛西紙工株式会社（代表取締役 小田 幹夫）

京都市西京区、従業員：15人

事業内容：ダンボールケース・強化ダンボール什器等の製造販売

(<https://rakusaishikou.com/>)